



「ポーポキ通信」の編集をしながら外のもみじを見えています。
ポーポキは、秋の色が大好きですが、寒くなるのはね……。
秋色いっぱいの暖かい日々をおくれますように！

Popoki's Hot News!



「ポーポキ」の一年をふりかえる&ポ一年会！12月18日！
一緒にポーポキ・ピース・プロジェクトの活動をふりかえて、
来年に向けて元気をつくります。ぜひ一緒にどうぞ！
くわしくは10ページへ！

「一言の平和」コーナー



ポーポキのお友だちのゆうすけにゃんから、届いた平和：
「笑う幸せ。笑わせる幸せ。私たちは笑顔でつながることができる。これは、一
つの平和ではないかと思います」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。ポーポキ
のメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !



ポーポキの第2回目 ミニ平和映画祭！

ポーポキは、2013. 2. 2にポーポキのミニ平和映画祭を開催する予定
です。映画を観て、お茶でも飲みながら話し合いませんか？
お待ちしております。詳しくは本号のポーポキ通信10ページへ。

いつもご協力、ありがとうございます！



「ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅」
(エピック 2012)はお陰様で好評です。ぜひ広めていただきたいと思います！

*神戸 YMCA でも販売していますよ！

本については、<http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html> をご参照ください。

☆ ポーポキ & suzanka にゃん in カンボジア ☆

(9月16日～9月30日、カンボジアへの平和の旅)

9月24日、午後3時30分、フンペンにて...

「ポーポキ、ポーポキ!! あの子たち見てえ～～次々とあの大きな...茶色の...川に飛び込んでいっちゃっている。危なくないの～? 怖くないの～?」



「いいえ。この子たちはカンボジアのマイ/リティーである水上生活コミュニティの子どもたちです。普段は水の上で生活しているから、川ととても仲よしなんですよ～。だから、大丈夫。心配しないで～スザンカにゃん!」

「なるほど。やああ～～友達になりたいな～!! ポーポキ、行きましょう～」。

このように、ポーポキとスザンカにゃんはたくさんの新しいお友達ができて、みんなといっぱい遊ぶことが出来ました。川に～1番素敵なジャンプはだあれ～と飛び込んだり、カメラで～THE ベストポーズ～を写ったり、そばのマーケットで～この魚ってなあに～クイズをやったり、サングラスで～サングラスコンテスト、だれが一番きれい?～を行ったりしていました。



そのときポーポキは...

「みんな～絵が好き？僕は...絵を描くのが大好き！みんなでこの長い布に描いてみませんか？そしたら、もうどこ行ってもず～っとつながっています！」

「いいねえ～だけど絵??」 子どもたちはあまり絵を描いたことがないらしく、はじめは少し遠慮していましたが、「大切なものは～？好きなものは～？」と聞けば、色々なアイデアが湧いてきました。1人目の友達がペンを持ったら、ほかのお友達も次々と興味を持ってきて。。



最終的にはあ～～ポーポキ布は子どもたちに囲まれて完全に消えてしまいました～(tuk-tukというカンボジアの乗り物の中で描いていたのです。)

出来たあ～！いつか住んでみたいお家、いつも見ているヤシノキ、大好きな香りのお花、この前食べたお魚、いつも暖めてくれる太陽などなど、素敵な作品がいっぱい出来ました。



皆さん、見てください～
いかがですか？

すごいでしょ～😊

今回のポーポキ友情物語の旅を通じて、特に感じたのは、水上生活の子どもたちにとって「水」がとても大切だということ。水そのものは生きるために必要なのはもちろんですが、それ以上に彼らにとっては食料の源泉であり、遊ぶ場であり、移動するスペースであり、大切な生活空間でもあるのです。普段から大好きなお水は上がったたり下がったり、そんな水が災害を起こすとき、

みんなはカンボジアの誰よりも早くその危険を感じてます。「ツナミ」という言葉はよくわからなかったみたいですけど、「大きな水がやってくる」といえば、おそらくみんなは私たちよりももっとよく、想像ができ、わかっていたと思います。東北の友だちとの深いつながいを感じますね～。

子どもたち、みんな～ありがとうお～!!また、かならず逢いに行きますから。

ポーポキ、また来よう～ね...😊

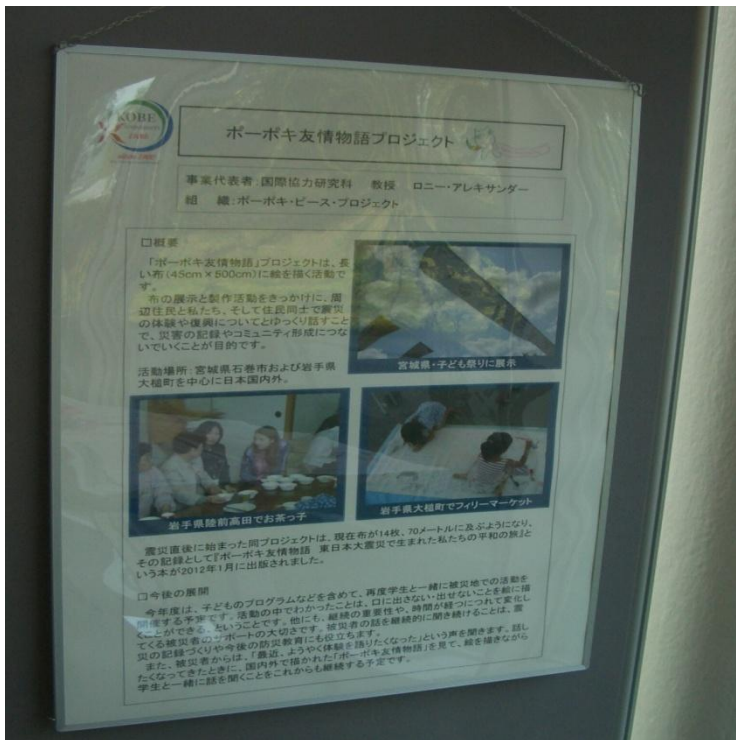


11月3日「防災・日本再生シンポジウム」にて

たろうにゃん

2012年11月3日に神戸大学総合研究拠点コンベンションホールにて「神戸から東北へ～いま伝えたいこと、そして学ぶこと～」というテーマのシンポジウムが、主に神戸大学と東北大学の共催で開かれました。

昨年の震災のあと、2つの大学は同じような災害に苦しまないですむよう、お互いに協力しあって研究をしていく約束をしました。そして、それからおよそ1年がたったこの日のシンポジウムでは、2つの大学の関係者によって、災害に関するプレゼンテーションや、パネルディスカッションが行われました。そうすることで、1年の研究成果を発表し、大学同士が今後どのように協力していくかをみんなに伝えようとしたのです。



また、その会場ではシンポジウムの一環として、震災復興支援・災害科学研究推進活動サポートなど、東日本大震災にかかわる様々な復興支援活動のポスター展示がおこなわれていました。たくさんの活動事業がポスターを展示するなか、我々ポーポキ・ピース・プロジェクトも展示をさせていただき、多くの人たちに私たちの活動の一部を見てもらう事ができました。今回はロニーにゃんと、さとにゃん、ありぱんにゃん、ゆーすけにゃん、スザンカにゃん、たろうにゃんが参加しました。

私たちはポーポキ・ピース・プロジェクトの活動の概要が書かれたポスターに加え、新聞記事、そしてポーポキ友情物語の布を展示していました。その場にいたメンバーは詳しい活動内容や、ポーポキ友情物語の布に描かれた絵にこめられた意味などを、訪れてくださった方たちに説明しました。「それは面白いね」と共感してくれる人もいましたし、説明をする中で自分たちの活動について再確認をすることができましたので、とてもいい時間を過ごせました。また、布の上にはいろいろな色のペンが置かれていて、訪れてくださった方に自由に絵を描いてもらえるようにしていました。訪れた人の何人かは描いてくださって、布の上に想いの詰まった素敵な絵が増えました。この絵がまた、東北や、あちらこちらと旅をしていきます。素敵です。

私は阪神大震災があった時、神戸にはいませんでしたし、まだ小学生でしたので神戸の



キレイに整った姿だけしか知りません。意識しなければ震災があったことも忘れてしまいそうです。しかし、シンポジウムのプレゼンテーションの中で、スクリーンに写された阪神大震災の震災当時のＪＲ六甲道の駅が崩れている写真を見て衝撃を受けました。本当に神戸も地震の影響を受けていて、そこから復興したのだ…と思うと同時に、今回のシンポジウムの表題でもある「神戸から東北へ…」という言葉の意味を考えさせられました。そして阪神大震災を神戸で経験したロニーちゃんがいるからこそ生まれた神戸と東北、さらに世界をつなぐポーポキ友情物語の活動についてもう一度深く考える機会になりました。



波波比的友情故事于中国
ポーポキ友情物語 in 中国

八間川結子

みなさんこんにちは、はじめまして！私は今、中国は上海で勉強中のポーポキのおともだち、ゆいこにゃんです=^v^= なんと、この間の11月9日にポーポキがロニーにゃんとはるばる日本から遊びに来てくれました！！

私が今勉強している上海の復旦大学と、韓国の高麗大学、そしてポーポキの住む神戸の神戸大学は今年から友情の輪を広げるために各大学の学生をお互いに受け入れていて、その3大学のためのシンポジウムがここ、復旦大学で11月9日に開催されたのです。ポーポキとロニーにゃんはこのシンポジウムで、東北に住んでいるお友達のことや、「あんしんな」おうちのこと、お友達とお絵描きのことをお話してくれました。シンポジウムには中国や韓国の学生や先生がたくさん参加していて、みんながしっかり二人のお話を聞いて、そしてお話の後にはみなでお絵描きをしました！



ポーポキの布を中国や韓国のお友達に渡すと、ドラえもんやピースサインをしている男の子の絵、にっこり笑っているお友達の絵などを描いてくれました。日本でみんなが知っているドラえもんは、中国や韓国のお友達もちろん知っています！（これから、ドラえもんみたいに世界中にたくさんのお友達ができたらいいなあ。。。とポーポキも言っていました=^v^=）にっこり笑ったお友達やピースサインの男の子を描いてくれた韓国人のお友達は、東北のみんなが自分の描いた絵を見てにっこり笑顔になればいいなあと言っていました！いろんな国のお友達が、ポーポキを通じて東北のみんなのことを想ってくれるのはとっても嬉しいことです。



これからも、ポーポキのお友達が世界中に増えて、そして東北のお友達のことも知ってもらって、そうやってポーポキの友情の輪がどんどん大きくなっていくといいなあと思います。ドラえもんみたいにポーポキがたくさんの人とお友達になれるように！



ポーポキ at ピッツバーグ子ども博物館 2012 年 10 月18日－22日



このプログラムを実現できたのは、ピッツバーグや日本にいるポーポキの友だちのおかげです。感謝します！

ポーポキとロニーニャンは、アメリカ合衆国ペンシルバニア州ピッツバーグ市の子ども博物館でポーポキ友情物語展を開催することができました。展示の内容は、次の通りです。①ポーポキ友情物語の布(6枚・壁に貼った)、②津波前後の大槌町の写真(12枚:伊藤陽子さん、3枚:植田俊郎さん、写真提供:伊藤さん。手にとって見るできるように、バインダーにファイルした)、③写真に対するコメントノート、④「大槌町にいるポーポキの友だち」(6人の紹介・壁に貼ったもの)、⑤ピッツバーグ子ども博物館から頂いたキャンバス(半分は大槌町で描いて、残りの半分はピッツバーグで自由に描けるようにテーブルにペンと一緒においた)、⑥上記のキャンバスを大槌町で使ったときの写真(壁に貼った)、⑦ロニー・アレキサンダーによるポーポキ友情物語活動、津波や平和についてのプログラム(数回)。

プログラムも展示も高く評価されたが、一人のお母さんは、小さな子どもたちに津波のような怖いものを見せたりすることについての妥当性について疑問を呈しました。博物館スタッフを含めて、その場にいた人々で議論しました。子どもたちに知らせることは大切だが、同時に助けてくれる人の探し方を教えることも大事だ、と結論づけることができました。展示を見て心配する方がいるという現実を受けて、博物館スタッフが勧めてくれたのは、下記のフレド・ロジャーズの引用を一緒に展示することでした。

「人間のことのすべては話題に値するものであり、話題にするもののすべてはよりよく対応できるようになり得る。感情について話し合うと、不可抗力的な気持ちや、不安、恐怖感を和らげることができる。そのような大切な話ができる信頼されている相手は、一人ではないことを知らせることができるでしょう。」

「子どもの頃、ニュースで怖い話を聞いたりしたとき、母親はいつも、「人を助けようとしている人をさがしなさい。そういう人は必ずいる。」

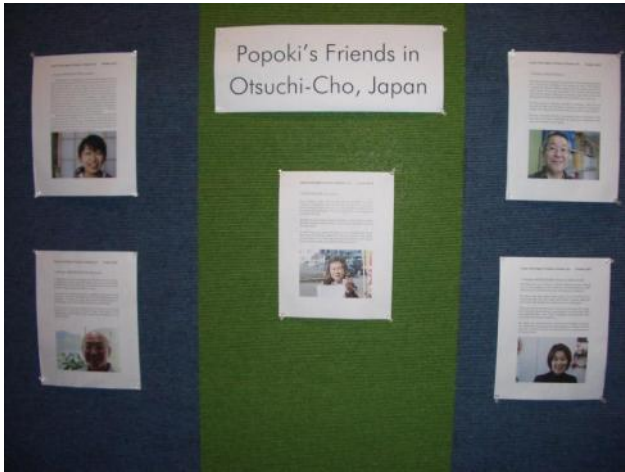
「私たちが暮らしている世界では、責任を共有しなければならぬ。『私の子どもじゃない、私のコミュニティじゃない、私の世界じゃない、私の問題じゃない』というのは簡単だ。しかし、必要を見て、対応しようとする人もいる。私はそういう人を尊敬する。」

— フレド・ロジャーズ(Fred Rogers), (1928.3.20 – 2003.2.27). アメリカで「Mr. Rogers' Neighborhood」という子どもテレビ番組などを通して、子どもや教育の専門家として信頼を得ている。

http://www.goodreads.com/author/quotes/32106.Fred_Rogers (アクセス 2012.11. 17)



左: ユースアライブ! 中高生対象のプログラム
右: ポーポキ友情物語展



左上: ポーポキの大槌町にいる友だち



右上: 描くためにしているキャンバス



写真: キャンバスに描く子どもたち



右下: 出来上がったキャンバス



1. とても想像的。そしてすごい。
2. クッキー！（好きなもの）
3. とても良い。地球上の仲間、これ以上いうことはありません。
4. =^v^= にゃんにゃん。
5. とてもカッコイイ （以上、中学生）

6. 私にとって、もっとも印象的だった写真は、顔の前にハンカチを持っている人たちです。別の大きな火事の記憶がよみがえってくる。

7. 震災の前と後の写真を見て、絶句しました。街があるのと、それが完全に破壊されたのを見て、とても悲しくなりました。そして、住民は今、どういう状態にいるのかとか、失われたものを再度つくろうとしているのかどうかについて考えさせられました。

8. たくさんの人々の生活があまりにも簡単に破壊されたことに胸が痛い。直接影響を受けた人たちの気持ちを想像できません。唯一できることは、この悲劇による犠牲者が失ったものが復興でき、人々が生き続けることを祈るだけ。

9. 破壊は本当にひどい。前後の写真を見るととても不安になります。これをみると、私たちは自らの安全と安心を当たり前に行っていることに気づきます。この災害をみると悲しくなります。人々が復興できることを祈っています。

10. 写真は、津波や火事が残した被害の巨大さももっと小さな静かな状況をも物語っています。破壊された町の写真を見た後、やってくる津波のイメージにぞっとさせられました。でも、もっとも印象深かった写真は、人が映っているものです。具体的には、ショックを受けた人々や津波の後でお祈りしているお坊さんの写真が私にとって感動的でした。

11. とくにいくつかの写真が私にとって印象的でした。例えば、とけた信号機。そのようなものは見たことがありません。津波のことはよく知りません(森林にかこまれた山岳地方出身)。でも、津波の後の火事に驚きました。また、12番目の写真(津波の前と後の街)にも驚きました。すべてがなくなっていました。それを想像することができません。水はどこへ行ったか、どんな音がしたのか。ロニーが丘の上で一晩を過ごした子どもたちの話をしてくれました。それを聞いて思ったことは、両親に再開できたかなあ。今、その子どもたちはみんな孤児かしら。津波がやってくる写真。その写真に男の人が駐車場で車のそばに立っています。あなたは恐らく、その人を知らないでしょうけど、彼は大丈夫だったのでしょうか。写真で見えた人は彼だけですーそしてその巨大な波。彼は指をさしている。彼は大丈夫ですか。この写真は、この世で生活していた最後の証拠かもしれません。彼の家族は写真を見ることができたのかな。カメラが捉えたもの、保存された瞬間。彼の無事を祈ります。

12. 前後の写真は信じられません。私の故郷、ピッツバーグという小さな町を思うと…良く知っている家や道、店は、生まれた時からその場所にあるのは当たり前。けど、津波がきたら、全部が消えてしまうなんて…。それを生き抜くことを想像できないが、この写真はその一日の出来事を物語っています。



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 54

今月のポガのテーマは顔！久しぶりに思い切り顔を動かしましょう！癒されるといいですね。



1. いつものように、背筋を伸ばし、自分を細く見せながらちゃんと座りましょう。
2. さて、立ちましょう。大きく息を吸って、息をはきながら両手を大きく広げ、「オオオォ！」
3. 次に、大きく息を吸って、はきながら両手を頭の上に延ばして「イイイイ！」
4. 今度は、大きく息を吸って、はきながら腰を曲げて「アアアアァ！」。
5. できた！できたポーズをどうぞ！
お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？

次回のポ一会 12月18日 神戸YMCA 18:45~20:50

11.24-28 ポーポキ友情物語 at IPRA (International Peace Research Association)大会。
三重県津市。(ポーポキは26日の午後、芸術・人権・平和部会)



12.18 18:45~20:50 ポー年会！

*参加される方は、飲み物・食べ物を一品お持ちください。合わせて、その中身を事前に教えてください。

2013.2.2 ポーポキのミニ平和映画祭（予定）

2013.2.9-11 ポーポキ in 東北(予定)

2013.3.3 ポーポキ at ロータリひょうご（予定）

2013.3.21 ポーポキ at 国際ロータリー（予定）

ポーポキの友だちからのご案内

12.1 平和教育関西フォーラム 13:30-17:00, 京都教育大学 F棟 F11 教室,
<http://www.kyokyo-u.ac.jp/KOUHOU/hureai/tizu.html>

2013.6.15-16 第9回移動労働者と連帯する全国フォーラム・神戸 2013 甲南大学

ポーポキ通信のバックナンバー: <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』 2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1 面)
- R. Alexander. "Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War." *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日 [子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60 メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29 面)
- 「平和祈る声まとめ本に」 斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22 面)
- K. Wada. "Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?" *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. "The Art of Healing"(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) "The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 『「ポーポキ、平和って、なに色？」の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 'Heart Lines' 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- "Human Rights, Popoki and Bare Life." *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色？ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色？』『私のいち押し』奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて～人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色？」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色？」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか？」RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組をクリック。番組 CH の 6CH をクリック。
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは？」Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」2008.10.8. 10 面
- 中国新聞「核廃絶への視点」2008. 7. 27 (核抑止論について……。3 時間!?! にわたる取材で一生懸命にポーポキのことを話したのに……。





私にとってのポーポキ

前田 哲利

私はポーポキと友達になってから平和について真剣に考え始めました。それ以前にも漠然とした平和観がありましたが、それがどんなものであるのか解っていませんでした。学校で平和について勉強する時もなんとなく戦争や貧困が無く自由であればみんなが平和と思うのかな？とかその程度のもので、自分自身平和かどうかなんて考えた事ありませんでした。しかし、ポーポキと出会いへいわについて考え、活動する中でへいわのことがわかり、へいわに触れたような気がします。まあへいわのことが解ったと言ってもよくわからないものだということがわかったただけですが。

色々な人とへいわについて、絵や文字を書き合ったり、一緒に考えたり、会話したり、体を使ったりする事で、よりリアルにより身近に感じ、自身のへいわとともに、みんなのへいわにも触れる事ができたような気がします。それが、へいわには様々な形、音、色があり、同じものでも見方によっては変わったり、時間が経てば変わったりと一つ決まったものでは無いということ、みんなそれぞれのへいわがあるんだな、ということを感じさせてくれました。

私にとってこの事はこれからの人生も多くの人と出会い付き合い合う中でも一人の人間や一匹の生物として生きて行く上でもとても有意義な事だと思います。

ありがとうポーポキ！



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動しており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行します。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の蘭をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!!